

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	社会福祉法人札幌恵友会 グループホーム茨戸ふぁみりあ3号棟	評価実施年月日	平成20年4月1日～平成20年4月20日
評価実施構成員氏名	金津 多喜子・田畑 多佳子・近藤 美枝子・吉村 寿子・吉田 有希・駒野 裕子・松井 大記・川村 厚子		
記録者氏名	金津 多喜子	記録年月日	平成20年4月30日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	設立時より入居者、ご家族に見て頂けるよう玄関に掲示している。又、職員用に携帯タイプのものもあり、常時職員が自身を見つめ直し日々の支援に努める。ホーム独自の目標もあり、分かり易い言葉で掲示されている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員個々人が理念を念頭に置き意識はしている。実践されるよう努力している。職員会議の際も入居者中心のケアとなるべく、話し合われている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	慣れた環境、家庭的な環境で生活出来るような取り組みは行なっている。施設行事や僅かだが訪問を受ける、こちらから出向く事でも少しずつ実践されてきている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	民家とは少し離れた所に立っているが、保育所の子供、近くのアパートの親子、同法人施設の入居者が通り掛かる事が多く、声を掛け合う付き合いを行なっている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	施設行事や地域の小学校との交流はある。	○ 町内会や老人クラブの方々の来訪を受けたい。こちらから出向く事については入居者の精神状況を考慮しなければならないのが現実。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の方からの相談受付は可能な状態だが職員状況によっては日を改めてという場面の想定も否めない。今の所、地域の方からの相談はない。同法人に別の相談機関があることでこちらで対応していると判断。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>前回の外部評価で指摘された改善事項の実践を行なった。自己評価を行なう事でサービスの向上の努力をしている。実践の意義についての理解は浸透されていない。</p>	<p>○</p> <p>自己評価、外部評価での改善点を話し合い取り組みたい。又、特徴のあるユニット作り(他の施設にはない誇れる部分)も行ないたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>専門職である私達には理解できる部分でもご家族や地域の方々には分かりにくかったと思われる事柄があり意見を頂いた。噛み砕いた表現が必要で参考とさせて頂いた。会議内容についてはホールに会議録を置き閲覧出来るようにしている。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>実践されていないのが現実。管理者会議で意見を頂く事はあるが事業所単位ではない。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修の参加はある。活用には至っていない。</p>	<p>○</p> <p>制度について職員間での理解、周知は必要。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>関連法については完全な周知ではないが職員個々人があってはならない事との認識が強く心得ている。入浴時等は全身チェックを行なっている。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>十分な時間がとれず。説明したり話しを傾聴する時間を持ちたい。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱の設置、苦情処理担当者の選定、契約書にて外部の担当者への連絡方法もお伝えしている。ご家族面会時には限られた時間の中でも意見を聞かせて頂いている。	○	ご希望や言葉には出さない訴えを見出し、添えるよう努力が必要。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	ご家族面会時に近況報告、身体・精神面について報告している。面会までに日にちを要するご家族には電話連絡も行なっている。金銭管理は毎月、収支報告を行なっている。不定期だがお小遣い帳のチェックも行なっている。職員の異動についての報告は行なっていない。	○	毎月ご家族宛に郵便物があるので連絡メモのようなものを作り同封するのも考えの一つ。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱の設置、苦情処理担当者の選定。苦情や意見があった場合、早急に職員に周知し改善と反映させるよう努めている。入居者の言動をくみ取り、大きな問題へとならぬよう早期対応に努めている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期職員会議や職員連絡ノートで提案してもらっているがじっくり話しができる機会は薄いと判断する。	○	職員との個別面談にて業務の内容や勤務のあり方等必要。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話合いや勤務の調整に努めている。	アセスメント表、職員連絡ノート、口頭で随時、情報の共有と対策について相談している。職員の確保が必要な状況になった場合、勤務の時間延長や勤務表の変更をおこなっている。	○	職員の急な休みや入居者の特別な変化等に人員が必要。もう少し余裕のある人員を確保してもらいたい。休みの日に休めない職員が出た場合それもストレスになる可能性がある。人員不足があった場合、入浴日を変更する等事故が起きないような業務の必要あり。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員個人のスキルアップや家庭事情の離職はやむを得ない場合がある。異動は原則行なわない方向とされている。離職の場合は入居者の理解力と精神面考慮して対応している。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外共に研修を受ける場は設けている。他に個人で公休を利用して年1～2回研修を受けてきている場合もある。	○	研修に出席した職員からの研修報告の場を持って良い。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外部研修の時に少し交流の機会があるが、殆どない。	○	同法人でグループホームが8ユニットもあるのだから、年に数回行き来して研修を行っても良い。互いのケアの向上と情報交換も出来る。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	各ユニットの職員同士で話し合ったり困った事があっても一人で抱え込まない環境をつくり精神的負担の軽減に努めている。	○	年に数回の親睦会、職員との個別面談を行った事がある。気分転換できる休憩室を確保したい。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員の研修や資格獲得にむけた支援を行なってくれている。反面、勤務がハードなユニットについての状況を把握しているかが不透明な部分もある。職員が向上心を持ち働いているのはごく一部であり殆どの職員は疲れているように感じる。	○	資格取得後に職場で活かせる方法があれば取り組みたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	限られた時間である事と、相談を受ける職員が兼務している為その傍らでの相談受付はやや困難。出来る限りゆっくりと話し、職員への周知に努めている。	○	職員の確保とどの職員でも対応可能な状態にしていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	限られた時間である事と、相談を受ける職員が兼務している為その傍らでの相談受付はやや困難。出来る限りゆっくりと話し、職員への周知に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	努めているが他サービスの選択肢を持たないご家族があるのも事実。グループホーム対象外と判断する相談を受けた場合、法人内の施設やサービスを紹介させてもらう事はできる。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご家族、ご本人が見学し、安心と納得をして頂いてサービスを開始しているが事前見学で場の雰囲気に馴染むまでには至らない。	○	短期入所や通所サービスの要素をもったサービスが行なわれたら安心感が得られ、雰囲気も感じて頂ける。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員全員が人生の大先輩として入居者を尊敬している。教わる事も多い。ご家族やご本人より情報を頂きケアや会話に反映している。上手く言葉で表現できない方、自覚されにくい方の行動サインで訴えの真意を汲み取り支援するよう努めている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	近況報告と短い時間ではあるが一緒に考える場を持つように努めている。ご本人の生活習慣や取り巻く環境を可能なかぎりお聞きし、ご本人の言動の理解へと繋げている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	近況報告や様子をお伝えし、話題作りになるべく支援している他、一緒に食事をして頂いたりご本人の居室でゆっくり過ごして頂ける様配慮している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族以外の方との交流がある入居者は一部。友人・知人の来訪はたまにある程度。電話や手紙のやり取りで行なっている方もある。外出の機会を持つ事で入居以前の生活状況に近づけられるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士の関係構築は日常生活に於いて大切なポイントと考える。常に観察し考慮している。職員同士も関係について連携し支援している。	○	例えばレクリエーション場面を増やす事で人間関係がより良くなるとも考えられる。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	現段階ではない。入院で退居になった方についてはご家族と出会った時に近況を伺っている程度。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来る範囲で努めている。ご家族に協力をお願いすることもある。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にご家族にライフヒストリーのご記入をお願いし、これまでの生活環境の把握と施設での生活のヒントとして活用させて頂いている。他に、ご家族・ご本人からの聞き取りも行なっている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日2回の申し送りの他、入居者一人一人と関わり偏りのないように心掛けている。特に介護を必要としない方については精神面重視で支援し、自覚症状に薄い方は言動サインを見て把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族に意見は伺うが、職員間や御家族との計画作成のための話し合いはもたれていないのが現状。モニタリング・計画作成は作成者のみの考えで作成していた。	○	職員間でモニタリングし、次の計画作成に反映させるべく決定した。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期モニタリングと見直し、又、状況変化時にもモニタリング・見直しを行なっている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	アセスメントシート、受診記録、連絡ノートでの情報共有で実践している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	外出や食事を一緒に摂るくらいの対応のみ。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	本人の意向というよりは施設規模で行なっている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現段階ではない。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現段階ではない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	随時、医療との連携は確保されている。2週間に1回の内科・精神科医の往診と週1回の訪問看護でフォローを受けている。ご家族の希望で受診対応している方、複数科に掛かっている方も各科の定期診察を行いフォローを受けている。提携病院の医師・看護師はグループホームについての理解が深く馴染みの関係構築がされていると判断。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	2週間に1回の精神科医の往診がある。医師がリビングまで来てくださり、入居者の普段の生活や会話を見ながら診察している。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週1回の訪問看護の導入で馴染みの関係の構築ができた。訪問を受ける事で診察時とは違う入居者の姿を診て頂き日頃の生活状況を把握してもらえ易くなった。特に状況変化時は通常との変化も理解され易いと判断。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時は医療相談員や看護師長との連絡を密に行なうように心掛けている。入居者の環境を変えない支援の一つとして医療保険対応での訪問看護導入も行ない施設内で治療を受けたこともある。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	医療措置が必要となると考えられた場合に担当医師・ご家族・職員で施設としてどの段階まで対応できるのか、ご家族がどの段階まで施設での対応を希望されるのかを話し合った方がある。ご本人には病状は伝えないという事も話し合いで決定した。繊細な問題の場合は職員に受診記録を参照するように徹底した。他、ご家族からどの段階まで入居させて貰えるのかと質問を受けた場合は日常的な医療措置が必要になった場合と話すに留まっている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	医療措置が必要となると考えられた場合に担当医師・ご家族・職員で施設としてどの段階まで対応できるのか、ご家族がどの段階まで施設での対応を希望されるのかを話し合った方がある。医師はグループホームの特性について理解が深く、ご本人・ご家族・職員の人員を考慮し医師が入院治療を要すると判断している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入居される前段階で考えられるリスクと環境に慣れるまでの概ねの期間をお伝えしている。生活習慣や好きな事をお聞きし、環境の変化を最小限にして安心して過ごして頂けるよう努めている。退居の際もご家族が面会されている時以外のご本人の過ごし方、リスクをお伝えし、次の施設にも情報提供をさせて頂いた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	人生の先輩として尊敬し、共に歩む事に重点を置いている。言葉掛けや対応も職員側の押し付けにならないよう気をつけている。個人情報にはドア付・鍵付の保管場所に有り他の機関への情報提供が必要な場合はご家族や判断できる入居者には許可を得ている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	日常的な関わりから、入居者個人に合った声掛けやご本人の話を傾聴するように心掛けているが、言葉に表出されにくい方もあり行動を観察し、職員はその言動から「何故だろう？」と考え真意を汲み取るよう努めている。自己決定に関しても理解力に合わせた説明を行なっている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	病院への受診や入浴日が固定されている事が多々あり、決まりごとが優先とならざるを得ない状況。受診や入浴日以外は個人として一日が過ごせられる様配慮している。入居者にとっては物足りないと感じられる。	○	入浴日を個人に合わせ、柔軟に対応したい。何か良い方法がないかと模索。又、過ごし方が判らない方に対してはより配慮が必要。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	お化粧品・マニキュアは常備。ご本人で管理されている方もある。月に一度の出張理容の他、行きつけの美容室へ外出される方もいる。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の能力に見合った調理手伝い、片付けを行なって頂いている。無理にお願いはせず、ご本人の意欲にお任せしている。食事内容についてもメニューが職員の一方的にならないよう食べたいものを入居者にお聞きし役立てている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者の好みがある程度把握できている為おやつや飲み物は概ね職員が決定し提供している。咀嚼、嚥下、疾患の状況に見合ったものを提供。ある程度まで同じ物を提供しなければ入居者間で不公平と感じられた事もある。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	食事、水分量や排泄パターンを掴み支援している。又、動作や表情を見てトイレへ誘導している。極力オムツの使用を控える事で、排泄感覚が薄れないよう努めている。トイレ動作や場所が判らなくなる方は助言と見守りで支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一部入居者にはご都合を伺い対応している。他の方は職員が体調・気分・受診の有無を見ながらの対応となっている。職員とマンツーマンの入浴であり会話や歌を楽しむ方が多い。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	生活歴や日々の活動の状態を見て個人に合った休息の時間を確保。リビングや廊下にソファを置き一息つけられるようにも配慮している。なるべく日中は活動、夜間は穏やかに過ごせられるような環境づくりをしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ご自分で楽しみを見つけられる方は一部の入居者に留まっている。徐々に重度化してきており外出の機会やレクリエーション機会が薄れてきているのも事実。役割は入居者の能力に見合ったものでお願いしている。	○	個別対応で気分転換や楽しめる時間を持ちたい。又希望する方と週に1~2回でもレクリエーション機会を作りたい。時間の確保の為に職員配置を見直す必要がある。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族の協力の下個人管理できている方は3名。別口に施設管理のお金もある。買い物の際にご自身で支払いされる方もある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	施設の中庭、ウッドデッキ、畑は独歩可能な方は自由に散策して頂いている。介助を要する方についても出来得る限りご希望に合わせる様心掛けていますが受診や入浴日の都合で何時でもという訳ではないのが現状。	○	入居以前に毎日自宅近隣を散歩されていた方について、敷地外の散歩を行なってみたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年に数回、買い物や喫茶に出かけている。個別対応も心掛けるようにした。ご家族同伴で外出される方もある。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を所持している方はご自由に連絡を取り合っている。他、電話の支援や手紙の郵送の支援も行なっている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	快くお迎えしている。ゆっくり居室で過ごして頂けるよう配慮している面会時間も特に設けておらず何時でも来て頂ける様にしている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束や活動の制限はしていないが、臥床中の体動激しくベッドからの転落防止の為にやむを得ずベッド柵を2本使用している方が一名ある。この方について、入居時にご家族より車椅子の抑制ベルトを使用してほしいとのご希望があったが使用せず、ベッド柵の使用のみとさせて頂いている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間は防犯上施錠しているが日中は開放している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者の所在と今、何をして過ごされているかを常時把握し、夜間は定時のラウンドも行い安全への配慮を行なっている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者の管理能力に見合った注意を促している。異食行為のある方は施設側で保管管理を行っており、同時に空腹状態にならないよう補食に配慮している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	歩行支援や嚥下状態に見合った食事の提供。薬は服薬介助前に必ず数回、顔と名前を一致させる等マニュアルとリスクを考えながら取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時マニュアルに沿って対応している。又、常にリスクを考えて取り組んでいる。初期対応の訓練も行っているが定期的ではなく夜勤帯は職員が一人の為リスクが高い。	○	緊急時対応に慣れていないため定期的に救急法や初期対応の仕方の講習を受けたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に二回の訓練実施。他、マニュアルや職員の連絡網で協力体制はある。地域の方々との連携は不透明。	○	地震の際のマニュアルがあっても良い。冬場の非難口の除雪を徹底したい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	問題ない場合は行なわないが状況の変化に応じて行っている。但し、そのような話しばかりではご家族の負担にもなり兼ねないと判断。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	バイタル、食事量、表情、体調は勿論、昼夜間の様子も把握して情報を共有。受診や日頃のケアに結び付けている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診記録や薬手帳は分かり易い場所に保管。薬の写真がついたものをファイルして最新の情報をわかり易くし周知している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけに取り組んでいる。	排便コントロールが必要な方に対して、排便サイクルに合わせて飲食物の工夫を行なっている。薬に頼りきらずに自然排便が出来るよう努力している。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	行なっている。拒否の強い方については時間を置いたり関わる職員を変えたりしながら対応している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分量は把握しアセスメントシートに記入している。量が低下している方については補食や時間を置いて提供する事で適量に近づけられるようにしている。メニューの見直しを定期的に行い、入居者から好評だった物を調査している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	職員自身の健康管理と毎日、消毒液を使つての清掃を行なっている。入居者には嗽と手洗いの励行を行なっている。疑いがあった場合には居室や衣類の消毒を徹底し、感染予防マニュアルもあり参考にしている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材の期限切れや残りの点検、調理器具の消毒、冷蔵庫点検と台所の清掃、新鮮な食材の発注、職員の徹底した手洗いに実施。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	施設の入り口に看板が設置してある。玄関には季節に合った飾りつけやプランターがあり開放的で綺麗。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者が作った作品、季節の花がさりげなく飾られている。立地環境面良く、静かで穏やかに過ごせられると判断する。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	緊急対応時の搬送に支障がある為、ソファの移動を行いその場が好きだった入居者にとっては物足りなさもある。出来得る限りソファの設置場所や入居者の精神状況に見合った過ごし易い場所を選定するように努めてはいる。	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具、仏壇等自由に持ち込み可能。施設の壁に大きな傷をつけない限りは飾りつけも可能。持ち込むものはご本人とご家族に一任しているが、入居に合わせて全て新しい物を揃えてる方もある。	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	こまめな換気、臭い消し、消毒を行なっている。定期清掃の他に汚れ易い場所の清掃は毎日行なっている。冷暖房や加湿器も使用し、季節に合った調整を行なっている。	○リビングは南と西から陽が当たり、天窗からも陽が差すため暑くなり易く外気との差は出来易い。少しづつ気温差をなくすような工夫が必要。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設の設定が整っている。バリアフリー構造でありトイレや廊下に手すりも設置、居室ベッドには自立助長の為の介助バーがある。居室内部も家具を置いても手狭にならずに丁度良い空間が確保されている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>入居者の能力を勘案し自信を持って出来る事を行なって頂いている。居室前に表札を掛ける事で、自室であることを分かり易くしている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>広く長いウッドデッキは散歩、運動に適している。中庭で野菜や花を作り鶏を飼い楽しませてくれていると評価。話題作りにも適している。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい 会話や表情で掴もうと努力している。 ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ①毎日ある ②数日に1回程度ある 入浴や受診日は忙しいが、その中でも時間を作ろうと思えば可能。 ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい 覚醒リズムを整えることは最低限行ない、個人のペースに合わせていると評価。 ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい 常に見守られている安心感が得られた時に豊かな表情になる。 ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい 個別で希望を伺い対応していきたい。 ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい 医療連携体制が整っている。 ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい 出来得る限り対応はしているが不満を訴える方もある。 ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい 時間に限りがありゆっくりお話しは出来ないが、出来得る限りの情報交換に努めている。 ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに 近所の親子や小学生の来訪がある。 ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<ul style="list-style-type: none"> ①大いに増えている ②<input checked="" type="radio"/> 少しずつ増えている 町内会や老人クラブの方の理解が少しずつ増えてきた。 ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての職員が ②<input checked="" type="radio"/> 職員の2/3くらいが 職員同士が思いやる場面が増えた。職場の雰囲気明るくなった。 ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者が ②<input checked="" type="radio"/> 利用者の2/3くらいが 職員の都合で決定し入居者本位で過ごせられていない。入居者が諦めから沈黙にならないよう耳を傾けたい。 ③<input checked="" type="radio"/> 利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族等が ②<input checked="" type="radio"/> 家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが 職員に遠慮して言えないでいるご家族があると思う。もう少し意見交換できればと思う。 ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・入居者が個性を持ち自己アピールできる為、活気にあふれている。職員全員が入居者のADLや認知力を落とさぬよう入居者の可能性を見出している。
- ・自然環境が良く、四季を十分に感じられる。動物がいて、畑の作物の成長を目で楽しみ、食べて喜びも感じられる。中庭での食事やお祭りも好評。